

ほくでん情報テクノロジー株式会社

「ORACLE MASTER スキルアップ研修プログラム」を3か年計画で実施 ORACLE MASTER Gold を25名のエンジニアが取得



ほくでん情報テクノロジー株式会社(北海道電力グループ)は2004年よりOracleとパートナーシップを締結し、Oracle Databaseを中心に開発の標準化を進めてきた。2016年より、ハイスルエンジニアの育成を目指し、育成ゴールの一つとしてORACLE MASTERのスキルアップ研修プログラム(3か年計画)を開始。このプログラムの実施の結果、ORACLE MASTER Gold Oracle Database 12cを25名、ORACLE MASTER Silver Oracle Database 12cを29名が取得した。こうして技術者が最新の資格を持つことで、迅速に対応できるスキルセットはもちろんのこと、パートナー体制も合わせて整備でき、これまで以上に顧客へ高いレベルでのサービスを提供することが可能となった。

2016年4月の電力自由化により Oracle エンジニアのニーズが増加



ほくでん情報テクノロジー株式会社
取締役 経営企画部長

福居 文継 氏

北海道電力グループの一員として、グループ各社の基幹業務システムや情報インフラの構築・運用・保守などを手がけるほくでん情報テクノロジー株式会社(以下、ほくでん情報テクノロジー)。近年は一般企業向けにも、データセンターサービス、RPAサービス、企業用メッセージサービスなどを提供している。同社は2004年にOracleとパートナー契約を締結、グループ本社を中心としたほくでんグループ向けのシステム開発においてOracle製品のライセンスを一括して提供してきた。取締役 経営企画部長

の福居文継氏は「Oracle DatabaseとOracle WebLogic Serverを開発の標準プロダクトとして採用し、さまざまなシステムに適用しています」と語る。

このうち、Oracle Databaseは同社が手がけるシステムの開発や運用などの業務に不可欠なことから、新入社員の教育プログラムにORACLE MASTER Bronzeの資格取得を組み込み、計画的に人材を育成してきた。一方、ORACLE MASTER SilverやORACLE MASTER Goldなどの資格をスキルアップのマイルストーンとして採用していたが資格取得については社員の自主性に任せていた。

またOracle Databaseに関する顧客からの問い合わせについて、Oracleサポートにサービスリクエスト(SR)を送って回答を出すまでに時間を要していたことも課題だった。SRを送る前に状況を迅速に把握できれば回答時間は短縮でき、問い合わせの際も問題を的確に伝えやすくなるため、どうすればここをスピードアップできるかがカギとなっていた。

こうした状況の中、同社開発案件で「Oracle Database 12c」が多く導入されるようになり、また2016年4月には電力自由化が施行されて大型のシステム開発案件が発生した。そこで同社は2016年末、ORACLE MASTERのスキルアップ研修プログラムを作成し技術者のスキル底上げを図ることにした。このプログラムは、2016年末から2018年度の3か年計画でORACLE MASTER Gold Oracle Database 12c(以下、12c Gold)をゴールとして取得者15名を目指すというものである。これまで同社にはOracle Database 11gやOracle Database 10gでGoldの取得者が

10名ほどいたものの、今回はゼロからの挑戦となった。

「電力自由化にともない、会社全体でのオラクル技術者のスキルアップにより、競争力を高めたいというミッションがありました。対外的にも、Oracle資格保有者がある一定の人数確保していることが、技術力の証明につながると考えました」(福居氏)

同社は1年目の2017年に12c Goldの前提となるORACLE MASTER



ほくでん情報テクノロジー株式会社
情報技術部 副部長

佐藤 順一 氏

Silver Oracle Database 12c(以下、12c Silver)の取得者が多く増えたことに自信を感じ、2年目に12c Gold取得者を目指す技術者を募った。その後、Oracleの体系的なトレーニングの実施と、現場でのOJT、オラクル社を交えての勉強会など、会社全体で企画運営しサポートした。

結果として、もともと12c Goldの取得者を15名にすることを目標としていたが、取り組みの成果として予想以上の25名の技術者が12c Gold、29名の技術者が12c Silverと大成功を収めることができた。

技術者のレベルの底上げにより 顧客へハイレベルなサービスが提供可能に

ORACLE MASTER Goldのような資格を取得するとすると、普段の

業務に使わない機能まで幅広く理解することが必要となるため、総合的な知識が強化され、全体を俯瞰で見られるようになった。その結果、ほくでんグループ向けシステムのOracle Databaseの保守業務においても、さまざまな問い合わせに即時対応できるようになり、その効果を実感している。情報技術部 副部長の佐藤順一氏は「当社ではOracleのパートナー業務として約20名程度の社内組織を形成し、Oracle Databaseを扱う開発グループに最低1名以上の社内組織メンバーを配置しています。



ほくでん情報テクノロジー株式会社
総務部 副部長(人材育成担当)

森 猛 氏

Oracle Database の性能劣化やエラーなどの原因を調べてほしいというリクエストがお客さまから寄せられ、1 次窓口の当社で対応できない場合は、2 次窓口 Oracle のサポート部門へエスカレーションします。以前はお客さまへの回答に 1、2 日かかっていたこともありましたが、基礎知識に加えてサポート業務や DB 環境構築等を通じて、実践知識を備えることができたことで 1 次対応での回答の質が上がりました。現在は 1 次対応だけでほとんどの問題が解決でき、リードタイムも大幅に短縮され、Oracle のサポート部門からも高い評価を得ています」と強調する。

これらの資格取得は、ほくでん情報テクノロジーの技術力の対外的なアピールにも貢献している。総務部 副部長(人材育成担当)の森猛氏は「結果的に会社の評価も上がり、提供するサービスへの信頼へ繋がります。また、新入社員には導入研修の中で ORACLE MASTER Bronze を取得させていますが、今回の ORACLE MASTER Gold 取得により、各従業員にスキルアップの道筋を示し、最新の技術力を修得するための研修参加や資格取得へのチャレンジ精神の高揚にも役立っています」と話している。

毎月 1 回の定例会を開催し 定期的にエンジニアのスキルをアップデート

同社では現在、社内において毎月 1 回の頻度で定例会を開催し、Oracle Database に関する情報交換や課題共有を行い、全体のスキルアップを図っている。そこには Oracle 北海道オフィスの担当者も参加し、常に情報をアップデートしているという。

同社は今後も Oracle Database を使ってシステムの開発や保守を続けていく方針だが、品質を維持していくためには立ち止まることなくエンジニアのスキルを高めていくことが重要と考えている。

「資格は、技術力を可視化しお客さまから信頼を得て選択いただくための指標であり、技術者本人が自信をもって業務に取り組むための重要な

アイテムでもあります。手綱を緩めるとあっという間に古い資格になってしまいます。現在のレベルを維持するためにも、ORACLE MASTER Gold の取得者を増やし、その中から最上位の ORACLE MASTER Platinum の取得者が一人でも出てくれればと思っています」(佐藤氏)

同社と Oracle との関係は良好で、これまでさまざまなかたちで北海道支社からの支援を受けている。福居氏は「今後も情報交換を密にして、Win-Win の関係を続けていきたいと思います」と期待を語ってくれた。



ほくでん情報テクノロジー株式会社

所在地：北海道札幌市中央区大通東 3-4
設立：1991 年 6 月
資本金：2 億円
社員数：424 名(2019 年 6 月 1 日現在)
事業概要：基幹業務システムの開発・保守、情報ネットワークや業務アプリケーションの提供、データセンターサービス、セキュリティサービス、RPA サービス

資格取得者インタビュー



ほくでん情報テクノロジー株式会社
情報システム開発二部
資材システムグループ
森井 憲三 氏

目に見えにくい技術力のアピールには、 資格の取得が効果的

入社 17 年目になる情報システム開発二部 資材システムグループの森井憲三氏は、システムの開発保守のエンジニアとして従事しており、2008 年から 2010 年にかけて Oracle Database 10g の ORACLE MASTER Bronz, Silver, Gold を取得している。今回、全社的な資格取得支援プロジェクトの立ち上げに合わせ、Oracle Database 12c の ORACLE MASTER Gold を取得することを決意した。

「動機は仕事上必要であったのと、自身のスキルアップとして目に見える結果が欲しかったためです」(森井氏)
受験に向けて森井氏は社内で行われた Oracle 研修に参加し、既存の知識をアップデートするとともに、通勤のバスの中などで勉強を重ねた。その結果、無事合格できたという。

もともと 10g の Gold を持っていたため、12c の Gold を取得したからといって大きな変化はない。ただ、職場内に ORACLE MASTER の Bronz, Silver, Gold の取得者が増えたことで作業の負荷分散ができ、突発的な作業が発生しても複数人でカバーできるようになったという。

「Oracle の資格は、オラクル社との SR 等のやりとりを行なううえでの必要な知識だと思っています。また、Oracle Database の仕組みをきちんと理解して開発標準を使うことで、より精度が高い設計ができています」(森井氏)

日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-3-13 赤坂センタービルディング 12F
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ
お問い合わせ窓口

ORACLE
University

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education>